

区民のみなさんと共に考えるシンポジウム

「コロナ禍における杉並区の医療現場とこれから」を開催しました

新型コロナウイルス感染症の拡大から2年余り。杉並区の医療現場では渾身の取り組みがなされてきました。杉並区がどのように地域の医療提供体制を維持してきたのか、これまでの歩みを振り返りつつ「次の安心」をどう手に入れるのか、区民のみなさんと共に考えるシンポジウムを開催しました。

12日（木）15時半から杉並公会堂で「コロナ禍における杉並区の医療現場とこれから」を考えるシンポジウムを開催し、約300名が参加しました。第1部は、「未知なるウイルスとの奮闘記」をテーマにトークライブを繰り広げました。医療に従事する立場である区内最大数のコロナ病床を抱える河北総合病院副院長岡井隆広氏と、新型コロナウイルスに感染し、医療を受ける立場となった経験を持つタレントが出演し、互いに経験者ならではの貴重なお話を伺いました。あわせて、区からは医療と患者を支える取り組みについて報告しました。

第2部は、話題の「医療崩壊 真犯人は誰だ」（講談社現代新書）の著者として有名な鈴木亘氏（学習院大学経済学部教授）の基調講演に続き、同氏と元東京都副知事で現在は明治大学名誉教授である青山侑氏、河北医療財団理事長河北博文氏、厚生労働省医政局職員が、国や杉並区による感染症の危機に対応できる医療施策について様々な視点で考えるパネルディスカッションを実施し、参加された区民のみなさんも熱心に聞き入っていました。

感謝のセレモニーでは、コロナ禍において区民の生命と健康の維持に貢献した医療従事者等へ杉並区長から感謝状を贈呈しました。桃井第五小学校児童から「医療従事者の方々は私たちの知らないところで、患者さんたちのために一生懸命働いてくださっています。ありがたい気持ちをこの曲に乗せて届けたいと思います。」と、杉並区応援歌「Go for it!」（「頑張れ」の意味）を日本フィルハーモニー交響楽団金管五重奏と同校合唱団の演奏が贈られました。美しい演奏と元気な歌声が会場に響き渡り、参加者から大きな拍手が送られました。

※シンポジウムの様子はユーチューブ杉並区公式チャンネルからもご覧いただけます。



【問い合わせ先】

杉並保健所特命事項担当副参事：03-3312-2111（内線）3361
総務部広報課：03-3312-2111（代表）